

情報処理技能形成に関する研究 —保健室におけるパソコン利用の実態調査から—

菊地 紀子

Investigation of computer use in school health room

Noriko KIKUCHI

<英文要旨>

38 Yogo-teachers at the elementary school and the junior high school where the student was accepted as a cadet teacher were able to cooperate in the investigation in spite of a busy schedule at the first term of 2005 fiscal year, and to collect valuable data.

How to use the personal computer in the school health room was investigated.

Merits and demerits of the personal computer use became clear as a result.

As for the merit, work is reduced, and the correction is easy, etc.

As for the demerit, time and the labor to master it are necessary and breakdowns, etc.

Because Yogo-teacher is busy, the computer literacy should be master in the school days.

I am going to do curriculum development about computer literacy of a Yogo-teacher course in future.

<日本文要旨>

平成17年度前期に、本学の学生を養護実習生として受け入れて下さった、小学校・中学校の38名の先生方は、お忙しい中調査にご協力下さり、貴重なデータが収集できた。

保健室でのパソコンの使い方を調査した。

成果としては、パソコン使用の功罪が明らかとなったことである。

良い点としては、「修正が容易」「作業の軽減」等である。

悪い点としては、「使いこなすための時間と労力」「機械トラブル」等である。

養護教諭の職務内容は多岐に渡り忙しいので、学生時代にパソコンは使いこなせるようになっていくことが肝心であると考えられる。

そこで、今後の課題としては、養護教諭養成課程における、情報基礎演習と情報処理演習の授業内容を改善することであると考える。

1. 研究動機

本学では、養護教諭養成課程が出来て、今年で7年目を迎える。その間、養護実習を終了し、教育現場の実際を体験してきた学生から、カリキュラムの改善、改革の要望が出された。その内容は、日本教師教育学会第12回研究大会より発表してきた。既報告^{1)~10)}は、主に養護教諭養成における実践的指導力形成に関する研究として、総論的なものであった。

これまでの養護実習先での学生に対する訪問指導を

通して、養護教諭の先生方からお話を伺う中で、これからは各論的な部分でのカリキュラムの改革、改善が必要ではないかと実感した。

また、養護教諭の先生方に伺ったところ、養護教諭の職務内容は、多岐に渡っており、ことにここ最近、以前と比べ、心のケアなど、時間を充分にとって話を聞く必要があることが増えている。また、学校現場では、コンピュータの導入¹¹⁾により、パソコン利用が進んでいることも考えられる。¹²⁾

そこで、本学では、情報基礎演習、情報処理演習を

担当していることから、その授業内容を一般的なものだけでなく、養護教諭に必要な情報処理技能に特化して行うことを考えた。これは、より実践に近い教材を使うことは学ぶ意欲や動機付けに有効であることが、栄養士養成における情報処理教育の教材に関する研究¹³⁾で明らかとなったためである。

これからの養護教諭を養成することにおいては、実際の保健室の情報化の現状を調査し、実践で役に立つ情報処理技能の修得過程を検討して、今後の養護教諭養成に役立てたいと考えた。

2. 研究の目的

- (1) 保健室の情報化がどのように行われているか、その実態を明らかにする。
- (2) 保健室の情報化の実態を踏まえ、養護教諭養成課程における情報処理技能の修得過程を検討する。
- (3) 養護教諭養成課程における情報処理技能の修得過程を通し、学生が実際に実践で役に立つ、情報処理技能が身についたと実感できているかを、明らかにする。

3. 研究方法

- (1) 学生の実習先である小学校・中学校・高等学校の養護教諭の先生方に対し、保健室の情報化について、アンケート調査を実施し、様態を分析する。
- (2) 保健室の情報化の実態に基づき、今後の養護教諭養成課程における、情報基礎演習と情報処理演習の授業内容を検討する。
- (3) 養護教諭養成課程における、情報基礎演習と情報処理演習を受講した学生に対し、実践で役に立つ情報処理技能が身についたと実感できているか、アンケート調査を実施し考察する。

4. 結果の考察及び成果と課題

(1) 学校の情報化

文部科学省「情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議」¹⁴⁾の最終報告（以下「最終報告」という）が、平成10年度に出された。それによると、資料1に示すとおり、平成12年度以降の整備計画として、校務の情報化を進めるために保健室、進路指導室、職員室等にもコンピュータを設置するということである。

また、学校の情報通信ネットワークの整備は、すべての学校をインターネットに接続する計画に、平成13年度までにすべての中・高等学校、特殊教育諸学校、平成15年度までにすべての小学校とある。

資料1 文部科学省「情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議」最終報告

情報化の進展に対応した教育環境の実現に向けて

情報化の進展に対応した教育環境の実現に向けて

情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議最終報告のポイント

1. 情報教育の内容の充実（第1次報告の提言、教育課程審議会の答申）
 - すべての児童生徒に情報活用能力を育成する—
 - ・学習指導要領の改訂（小、中、平成14年度から実施）
 - ・小、中、高等学校段階を通じてコンピュータ等を積極的に活用
 - ・小学校段階では、総合的な学習の時間を中心に情報教育を実施
 - ・中学校段階では、技術・家庭科の「情報とコンピュータ」を必修に、発展的内容は生徒の興味・関心等に応じて選択的に学習
 - ・高等学校段階では、新教科「情報」を設け、「情報A」「情報B」「情報C」の3科目から1科目選択必修
 - ・特殊教育諸学校では、小、中、高等学校に準ずるほか、盲学校において情報機器の活用を明確に位置づけ、知的障害者を教育する養護学校の高等部にも教科教育として「情報」を設置
2. 教育用コンピュータ・ソフトウェアの整備
 - 児童生徒がコンピュータに触れる機会をできるだけ多く確保する—

平成11年度までの実行整備計画

- ・小学校1校当たり 2.2台
- ・中学校1校当たり 4.2台
- ・高等学校1校当たり 4.2台
- ・特殊教育諸学校1校当たり 4台

- ・平成12年度以降の整備計画
 - ・学校段階（児童生徒数）を勘案
 - ・コンピュータ教室に加え、普通教室、学校図書館等にも配置し、校内をネットワーク化
 - ・校務の情報化を進めるために保健室、進路指導室、職員室等にも設置
- ・ソフトウェアの整備計画
 - ・教育用コンピュータ整備計画に即して策定

 3. 学校の情報通信ネットワークの整備
 - すべての学校をインターネットに接続する—

実行のインターネット接続計画

 - ・平成13年度までにすべての中・高等学校、特殊教育諸学校
 - ・平成15年度までにすべての小学校

文部科学省報道発表一覧「学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」¹⁴⁾（以下「報道発表」という）によると、資料2に示すとおり平成16年度現在、学校のインターネット接続率は99.9%とあり、「最終報告」で示された計画通りに進められていることがわかる。

資料2 文部科学省報道発表一覧「学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」報道発表

2. インターネットへの接続状況等

(1) 学校の接続状況等 (平成17年3月31日現在)

学校種別	学校数 (A)	インターネット接続学校数		接続率 (B/A) %	高速インターネット接続学校数 (C)	学校の高速インターネット接続率 (C/B) %
		接続学校数 (B)	接続率 (%)			
小学校	(22,913)	(22,937)	(99.7%)	(15,519)	(68.0%)	
中学校	(10,292)	(10,282)	(99.9%)	(7,445)	(72.4%)	
高等学校	(4,098)	(4,098)	(100.0%)	(3,609)	(88.1%)	
中等教育学校	(4)	(3)	(75.0%)	(3)	(100.0%)	
特殊教育諸学校	(88)	(88)	(100.0%)	(56)	(63.6%)	
日中学校	(68)	(68)	(100.0%)	(63)	(92.6%)	
ろう学校	(104)	(104)	(100.0%)	(86)	(82.7%)	
養護学校	(758)	(757)	(99.9%)	(606)	(80.1%)	
小計	(930)	(929)	(99.9%)	(748)	(80.5%)	
合計	(38,237)	(38,149)	(99.8%)	(27,324)	(71.6%)	
	37,991	37,951	99.9%	30,987	81.7%	

(注1) 上段()内は、前年度の数値を示す。

しかし「報道発表」から、保健室のコンピュータ整備状況を見てみると、資料3に示すとおり全体で27%、小学校23%、中学校19.4%、高等学校60.1%となっている。コンピュータ現有台数に対するインターネット接続台数の割合は、小学校、中学校、高等学校の何れも、7割を超えたにすぎないのが現状である。この「報道発表」から、校務の情報化を進めるために、保健室等にもコンピュータを設置する計画は、あまり進んでいないことがわかる。

資料3

(3) ネットワーク対応状況(設置場所別台数 合計)

学校種	教室数	Aのうち、コンピュータ整備済み数			Aのうち、LANに接続している数			コンピュータ現有台数	LAN接続している台数	インターネット接続している台数	コンピュータ現有台数に対するインターネット接続している台数の割合
		数	B/A	%	数	C/A	%				
合計	37,919	10,254	27.0%	8,716	38.1%	15,370	11,307	11,238	73.2%		
保健室・教員相談室(心の教室)	52,651	14,228	27.0%	20,047	38.1%	15,370	11,307	11,238	73.2%		
事務室	20,509	17,036	83.1%	14,013	68.3%	40,986	29,815	31,000	75.0%		
その他	60,225	8,718	14.5%	17,318	28.8%	30,930	18,354	17,709	57.2%		
合計	1,235,462	326,062	26.4%	532,009	43.1%	1,913,068	1,709,471	1,705,672	70.6%		

(3) -① ネットワーク対応状況(設置場所別台数 小学校)

学校種	教室数	Aのうち、コンピュータ整備済み数			Aのうち、LANに接続している数			コンピュータ現有台数	LAN接続している台数	インターネット接続している台数	コンピュータ現有台数に対するインターネット接続している台数の割合
		数	B/A	%	数	C/A	%				
小学校	22,720	5,254	23.1%	4,332	33.2%	6,161	4,302	4,332	70.3%		
保健室・教員相談室(心の教室)	26,240	6,033	23.0%	8,716	33.2%	6,161	4,302	4,332	70.3%		
事務室	9,388	7,312	77.9%	5,409	57.6%	10,177	5,991	6,748	72.4%		
その他	30,292	3,287	10.9%	7,357	24.3%	9,680	5,634	5,897	60.8%		
合計	609,758	153,260	25.1%	225,179	36.9%	794,123	708,982	725,261	70.6%		

(3) -② ネットワーク対応状況(設置場所別台数 中学校)

学校種	教室数	Aのうち、コンピュータ整備済み数			Aのうち、LANに接続している数			コンピュータ現有台数	LAN接続している台数	インターネット接続している台数	コンピュータ現有台数に対するインターネット接続している台数の割合
		数	B/A	%	数	C/A	%				
中学校	10,254	1,944	19.4%	1,513	32.6%	3,707	2,623	2,656	70.3%		
保健室・教員相談室(心の教室)	18,586	3,600	19.4%	6,058	32.6%	3,707	2,623	2,656	70.3%		
事務室	6,179	4,990	80.8%	4,008	64.9%	7,513	4,717	5,059	66.8%		
その他	14,442	1,871	13.0%	3,710	25.7%	6,099	3,308	3,302	54.1%		
合計	346,879	72,799	21.0%	130,037	37.5%	533,901	488,567	491,888	70.6%		

(3) -③ ネットワーク対応状況(設置場所別台数 高等学校)

学校種	教室数	Aのうち、コンピュータ整備済み数			Aのうち、LANに接続している数			コンピュータ現有台数	LAN接続している台数	インターネット接続している台数	コンピュータ現有台数に対するインターネット接続している台数の割合
		数	B/A	%	数	C/A	%				
高等学校	4,016	2,456	61.1%	4,440	67.5%	4,735	3,771	3,641	76.9%		
保健室・教員相談室(心の教室)	6,581	3,952	60.1%	4,440	67.5%	4,735	3,771	3,641	76.9%		
事務室	4,057	3,924	96.7%	3,818	94.1%	19,372	16,020	16,029	82.3%		
その他	17,902	2,847	15.9%	5,151	28.8%	13,822	8,261	7,365	53.3%		
合計	236,999	86,945	36.7%	152,973	64.5%	543,995	476,654	453,658	83.8%		

また、資料4に示すとおり個人所有のコンピュータについて、工作上必要なため学校で使うことがある教員の割合は、全体で56.6%とあり、そのうち学校のネットワークに接続して使っている教員の割合は、27.7%とある。セキュリティ上の対策として、個人所有のコンピュータについて、学校上のルールで接続が禁止されている割合は、全体で36.6%、学校のセキュリティルールに従えば可能である割合は、39.9%、特に規制はない割合は、23.4%であった。

今年度より個人情報保護法が施行となり、情報の漏洩等特に気を付けなければならない教育の現場におい

資料4

(6) 個人所有のコンピュータについて

学校種	教員数	仕事上必要なため学校で使うことがある教員数	割合	学校上のルールで接続して使っている教員数		学校上のルールに従えば可能である割合	
				数	%	数	%
小学校	400,526	236,592	59.1%	98,351	24.6%	138,241	34.5%
中学校	228,512	154,126	67.4%	85,745	37.5%	68,381	29.9%
高等学校	192,998	75,672	39.2%	44,887	23.3%	30,785	16.0%
中等教育学校	135	51	37.8%	31	23.0%	20	14.8%
盲学校	3,130	1,821	58.2%	1,158	37.0%	663	21.2%
ろう学校	4,625	2,299	49.7%	1,274	27.5%	1,025	22.2%
養護学校	50,417	27,500	54.5%	12,578	24.9%	14,922	29.6%
小計	58,172	31,620	54.4%	15,010	25.8%	16,610	28.6%
合計	880,343	498,061	56.6%	244,024	27.7%	254,037	28.9%

(7) セキュリティ上の対策(個人所有のルール)

学校種	インターネット接続台数	個人所有のコンピュータについて		学校上のルールは			
		禁止されている割合	左の割合	左の割合	左の割合		
小学校	22,691	8,651	38.1%	8,247	36.3%	5,793	25.5%
中学校	10,244	3,689	36.0%	4,135	40.4%	2,420	23.6%
高等学校	4,076	1,226	30.1%	2,286	56.1%	564	13.8%
中等教育学校	7	2	28.6%	5	71.4%	0	0.0%
盲学校	68	19	27.9%	43	63.2%	6	8.8%
ろう学校	104	26	25.0%	63	60.6%	15	14.4%
養護学校	761	294	38.6%	367	48.2%	100	13.1%
小計	933	339	36.3%	473	50.7%	121	13.0%
合計	37,951	13,907	36.6%	15,146	39.9%	8,898	23.4%

て、個人所有のコンピュータを持ち込まなければ仕事にならない実態は、憂慮されるべきことであると考えられる。

(2) 保健室の実態調査

① 調査項目

表1のとおり、養護教諭を取り巻く環境要因及び保健室の実状について、回答選択式と自由記述による調査を実施した。

② 調査対象者

平成17年度前期に本学の学生を養護実習生として受け入れて下さった小学校・中学校・高等学校の養護教諭の先生方

③ 調査方法

口頭及び紙面による予備調査を行い、その後紙面による調査を実施した。

(3) 調査結果及び考察

平成17年度前期に、本学の学生を養護実習生として受け入れて下さった、小学校・中学校・高等学校の養護教諭の先生方45名に対し、調査依頼をしたところ38名から回答があり、回収率は84.4%であった。

① 養護教諭を取り巻く環境要因

表1のとおり、養護教諭を取り巻く環境要因として、学校種別、児童生徒数、教職員数、所在都道府県名、勤続年数、パソコン使用年数を調査した。

学校種別では、小学校25校、中学校13校であった。

表2のとおり、児童生徒数では、100人未満は、2校

表1 養護教諭を取り巻く環境要因及び保健室の実情調査用紙

○ 印をつけるか具体的にご記入ください。(複数回答可)

学校種別	小学校	中学校	高等学校
児童・生徒数	名		
教職員数	名		
所在地道府県			
勤続年数	年		
パソコン使用年数	年		
保健室にパソコンがありますか	はい	いいえ	
保健室のパソコンはインターネットに繋がっていますか	はい	いいえ	
保健室のパソコンは学校で設置されたものですか	学校	個人持ち込み	
保健室業務にパソコンを使っていますか	はい	いいえ	
保健室業務にパソコンを使う効果	1. 業務の効率化 2. データの数量的処理による効果(時系列的に発達過程が分かるなど) 3. グラフ化することによる視覚効果 4. データや文書の蓄積による記録効果 5. 文書を活字にすることによる効果 6. 画像編集効果 7. 画像挿入による視覚効果 8. その他()		
保健室業務にパソコンを使っている場合どこにあるパソコンですか	保健室	校内	
保健室業務用に開発されたソフトを使っていますか	はい	いいえ	
使っている場合のソフト名	はぐみ	えがわ	その他()
保健室業務内容でパソコンを使っていること	1. 健康診断のデータ処理 2. 文書作成 3. 資料作り(授業・会議・研究) 4. 保健室のホームページ 5. その他()		
保健室業務をパソコンで行う上でどのような技能が必要ですか	1. 表計算(Excel等) 2. グラフ作成(Excel等) 3. 文書作成(Word一太郎等) 4. 提示作成(PowerPoint等) 5. ホームページ作成 6. その他()		
どのようなことはむしるパソコンを使わず、手作業の方がよいとお考えですか	1. 保健健儿等子どもたちに見せるもの 2. 保護者への通知 3. 公文書 4. その他() その理由		
パソコンを使う良い点、悪い点、改善点などご自由にお書きください。			

表2 養護教諭を取り巻く環境要因

38名中

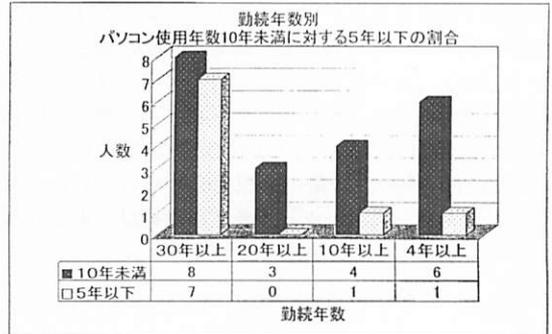
児童・生徒数	所在地道府県	勤続年数	パソコン使用年数
100未満	2 東京	15 30年以上	10 10年以上 17 45%
100以上200未満	5 埼玉	6 20年以上30年未満	10 10年未満 21 55%
200以上300未満	7 千葉	3 10年以上20年未満	10
300以上400未満	9 神奈川	6 4年以上10年未満	8
400以上500未満	3 静岡	1	
500以上600未満	2 茨城	3	
600以上700未満	1 栃木	2	
700以上800未満	1 福島	1	
800以上900未満	2 群馬	1	
900以上1000未満	1		
1000以上	1		
合計	38	38	38

とも栃木県の小学校であった。1000人以上は、千葉県の小学校であった。都道府県自治体によるものと考えられるが、概ね900人を超えると養護教諭は2名配置となるため、千葉県のこの小学校も養護教諭は2名配置であった。

教職員数は、未記入の所もあり、学校規模に対して適正な人数が配置されているものと考えられるため、今回の調査結果からは割愛した。

所在地道府県では、養護実習の受け入れ先として、東京都以外は母校でお願いしているため、本学の学生が関東近県から通学していることもあり、1都8県に

図1



及んだ。

勤続年数では、10年以上の先生が8割近くとなっており、養護教諭としての経験年数を積んだベテランの先生方のご指導を受けていることが明らかとなった。

パソコン使用年数を、10年で区切ると10年以上か10年未満かは、45%と55%でほぼどう割合である。パソコン使用年数10年未満を細かく見てみると、図1に示すとおり、勤続年数4年以上10年未満では8名中6名が、10年未満であり、ほとんどが勤続年数=パソコン使用年数であった。これに対し、勤続年数30年以上では、10名中8名が10年未満であり、その内7名が5年以下のパソコン使用年数であった。中には「スポーツ振興センター業務がパソコンでとなったため、この夏から勉強をはじめた」という勤続年数30年以上の先生のコメントがあった。

②保健室のパソコン実態調査

保健室のパソコン実態調査では、表3に示すとおり、保健室にパソコンがある割合は、79%であった。この内インターネットに繋がっている割合は、37%であっ

表3 保健室パソコン実態調査結果

38名中

	はい	いいえ		
保健室にパソコンがありますか	79% (30名)	21% (8名)		
保健室のパソコンはインターネットに繋がっていますか (30名中)	37% (11名)	63% (19名)		
	学校	個人持ち込み	両方	その他
保健室のパソコンは学校で設置されたものですか	42% (16名)	45% (17名)	5% (2名)	8% (3名)
	はい	いいえ		
保健室業務にパソコンを使っていますか	95% (36名)	5% (2名)		
	保健室	校内	両方	その他
保健室業務にパソコンを使っている場合どこにあるパソコンですか (36名中)	75% (27名)	8% (3名)	14% (5名)	3% (1名)
	はい	いいえ		
保健室業務用に開発されたソフトを使っていますか (24名中)	63% (24名)	37% (14名)		
使っている場合のソフト名 (24名中)	はぐみ	えがわ	両方	その他
	8% (2名)	84% (20名)	4% (1名)	4% (1名)

た。保健室にパソコンがある割合は、「報道発表」の全体で27%に対して高い割合である。しかし、保健室のパソコンは学校で設置されたものかどうかとなると、学校で設置されたものは42%に過ぎない。その他や両方を含めると58%が個人の持ち込みということになる。個人の持ち込みは「報道発表」でも全体で56.6%と同じような割合であった。また、表8の改善点に示されているとおり、「PCが保健室備品として認められていない」現状があり、「保健室にPCを設置しインターネットにも繋がっているとよい」という要望が出されることとなるのは必定と考えられる。

保健室業務にパソコンを使っている割合は、95% (36名)であった。使っていない2名は、何れも勤続年数30年以上で、パソコン使用年数は1年未満、児童生徒数は100以上200未満の学校であった。保健室業務をどこにあるパソコンで行っているかについては、75%が保健室と答えていた。その他1名は家で使用とあり、その理由としては、学校では子どものいる間ではできないとあった。研究動機でも述べたとおり、養護教諭の職務内容は、多岐に渡っており、表8の悪い点に示されているように、パソコン使用の功罪が明らかとなった。

保健室業務用に開発されたソフトを使っている割合は、63%であった。使っているソフトは84%が「えがお」であった。表8の良い点に示されているとおり、「専用ソフトを使うと簡単にできる」ので、業務の効率化が図れることになるが、専用ソフトは1本4~5万もするため、表8の悪い点に示されているとおり、「お金が掛かる」ことになり、コンピュータ整備と同じように、必ずしも専用ソフトを入れてもらえるとは限らない現実が伺える。

表4 保健室業務にパソコンを使う効果

36名中	
1. 業務の効率化	83% (30名)
2. データの数量的処理による効果 (時系列的に見渡過程が分かるなど)	75% (27名)
3. グラフ化することによる視覚的效果	80% (29名)
4. データや文書の蓄積による記録的效果	86% (31名)
5. 文書を赤字にすることによる効果	42% (15名)
6. 画像編集効果	33% (12名)
7. 画像挿入による視覚的效果	42% (15名)
8. その他	メール、教材作成

③保健室業務にパソコンを使う効果

保健室業務にパソコンを使う効果としては、表4に示すとおり「データや文書の蓄積による記録的效果」を上げる先生が86%と最も多かった。次いで「業務の効率化」83%であった。「グラフ化することによる視覚的效果」「データの数量的処理による効果」は、70%を超える先生方が上げていた。「文書を活字にするこ

とによる効果」「画像挿入による視覚的效果」「画像編集効果」は、40%近い先生方が上げていた。この結果から画像処理は、あまり行われていないのではないかと推察された。

表5 保健室業務内容でパソコンを使っていること

36名中	
1. 健康診断のデータ処理	94% (34名)
2. 文書作成	94% (34名)
3. 資料作り (授業・会議・研究)	100% (36名)
4. 保健室のホームページ	11% (4名)
5. その他	利用記録、委員会活動、Web

保健室業務内容でパソコンを使っていることは、表5に示すとおり、保健室業務でパソコンを使っている先生全員が「資料作り」と答えており、次いで「健康診断のデータ処理」「文書作成」が94%であった。「保健室のホームページ」は11%で、あまり作成されていないことが示唆された。その他としては、利用記録が数名、委員会活動、ホームページによるデータ発信や送受信であった。

表6 保健室業務をパソコンで行う上で必要な技能

36名中	
1. 表計算(Excel等)	92% (33名)
2. グラフ作成(Excel等)	92% (33名)
3. 文書作成(Word・大塚等)	94% (34名)
4. 掲示作成(PowerPoint等)	64% (23名)
5. ホームページ作成	19% (7名)
6. その他	データ入力、FileMaker(健康診断票記入)、Web

保健室業務をパソコンで行う上で必要な技能としては、表6に示すとおり、「表計算」「グラフ作成」「文書作成」は、90%以上の先生方が必要な技能と答えていた。「ホームページ作成」は、19%とここでもまた、ホームページ作成はあまり必要とされていないことが示唆された。

④パソコンを使わず手作業の方がよいもの

パソコンを使わず手作業の方がよいものとしては、表7に示すとおり、47%の先生方が「保健便り等子どもたちに見せるもの」と答えていた。その他では、個

表7 パソコンを使わず手作業の方がよいもの

38名中	
1. 保健便り等子どもたちに見せるもの	47% (18名)
2. 保護者への通知	0% (0名)
3. 公文書	0% (0名)
4. その他	個別文書、廊下掲示物、看板、手芸教材・立体教材、ポイント、ケア・ケース
理由	頻度数
軽さが伝わる	8
メッセージが受け入れられやすい・気持ち伝わる	5
読んでもらえる	2
手作りのぬくもり感がある	2
目を引く	
その人らしさが表現できる	
看板は毛筆の方がよい	
大きいサイズの印刷ができるプリンターがない	
時間を気にせず簡単にできる	
親しみやすい	
手作業の方がよいと思われるものは特になし	2

表8 パソコンを使う良い点、悪い点、改善点

386中

良い点	頻度数	悪い点	頻度数	改善点
修正が容易	8	使いこなすための時間と労力	6	養護教諭同士や教職員で協力する体制
作業の軽減	7	子どもがいる間はできないので家で作業		これからの養護教諭には必要
データ処理後の考察が容易	2	個人情報に関する管理能力、守秘義務等自己責任が問われる	4	行政機関に対する申請等オンライン化される
子どもに関わる時間を作り出すためにもPCでの作業により業務の効率化が図れる	4	保健室にPCがないとあるところへ行かなければならない		保健室にPCを設置しインターネットにも繋がっているとよい
インターネットで必要な資料が取り出せる		急ぎの時にすぐ対応できない		PCが保健室備品として認められていない
読みやすい	2	機種トラブル	2	
専用ソフトを使うと簡単にできる		パソコンに向かっていると子どもの対応ができないので、時間のあるときしかできない		
理解されやすい		パソコンに向かう子どもが見てどう思うか心配		
間違いが少ない		パソコンで作成したものは普段に見えて視覚に訴える効果が低下してしまう		
データの持ち運びが容易		パソコンで作成するために時間を費やし子どもの対応がおろそかになることはよくない		
		漢字を忘れる		
		書くことが億劫になる		
		ほかに欠ける		
		1日の大半パソコンに向かっていることもよくある		
		文字に味わいが無い		
		漢字は読んでもらえない		
		お金が掛かる		

別文書が数名、廊下掲示物、看板、手芸教材・立体教材といったパソコンでは作れないものであった。その理由としては、「暖かさが伝わる」「メッセージが受け入れられやすい・気持ち伝わる」「手作りのぬくもり感がある」等、パソコン作成による画一的なものでは伝えにくいことであった。しかし、「手作業の方がよいと思われるものは特になし」という回答もあり、個人の見解によるものと考えられる。

パソコンを使う良い点、悪い点、改善点は、表8に示すとおりである。良い点としては、「修正が容易」「作業の軽減」等、パソコンを使うならでの回答であった。悪い点としても、「使いこなすための時間と労力」「機械トラブル」等、パソコンを使うならでの回答であった。改善点としては、これからは「行政機関に対する申請等オンライン化される」傾向にあり、「養護教諭同士や教職員で協力する体制」が望まれ、「これからの養護教諭には必要」と考えられていることが示唆された。改善点に示されている、「PCが保健室備品として認められていない」ために、悪い点に示されている「保健室にPCがないとあるところへ行かなければならない」ことになり、子どもの対応がおろそかになる悪循環を生むことになると考えられる。良い点と悪い点を比較すると、「子どもに関わる時間を作り出すためにもPCでの作業により業務の効率化が図れる」と「パソコンで作成するために時間を費やし子どもの対応がおろそかになることはよくない」と相反する回答となっていた。職業についてから必要な技能を修得しようとする、本来やらなければならない仕事より、技能修得に時間と労力を要してしまうことになることが伺える。これから養護教諭になろうとする人々には、ぜひとも学生時代に身につけてもらいたい能力であると異口同音に回答が寄せられた。また、良い

点として「データの持ち運びが容易」という回答があったが、「個人情報に関する管理能力、守秘義務等自己責任が問われる」という悪い点としての回答もあり、先にも述べたとおり個人情報の管理の点からも、保健室へのコンピュータ整備が進み、セキュリティの面でも養護教諭一人の問題ではない対策が急がれるべきであると考えられる。

(4) 成果と課題

平成17年度前期に、本学の学生を養護実習生として受け入れて下さった、小学校・中学校の38名の先生方は、お忙しい中調査にご協力下さり、貴重なデータが収集できた。

その中で、成果としては、パソコン使用の功罪が明らかとなったことである。養護教諭の職務内容が多岐に渡り、事務処理の効率化のためには、パソコンはなくてはならないものとなっていくことが考えられる。しかし、パソコンを使いこなすために時間と労力を使い、最も時間を掛けなければならない子どもへの対応がおろそかになるようでは、本末転倒ということが考えられる。多くの先生方のご指摘にもとおりと、学生時代にパソコンは使いこなせるようになっていくことが肝心であると考えられる。

現段階では、保健室のホームページに関しては、あまり必要とされていないことが示唆されたが、これからは必要となってくることも考えられる。

保健室業務用に開発されたソフトを使えることが望ましいが、全ての学校がそうなるとは限らない現実があるので、保健室業務をパソコンで行う上で必要な技能の調査結果にもとおりと、少しでも事務処理の軽減を図るためにも、基本となる文書作成と表計算は、使えるようになっていくことが望ましいと考えられる。

そこで、今後の課題としては、養護教諭養成課程における情報処理技能の修得過程を検討し、情報基礎演習と情報処理演習の授業内容を見直し、養護教諭の職務内容に沿った教材を使い、学生が実際に実践で役に立つ、情報処理技能が身についたと実感できているかを、明らかにしていきたいと考える。

終わりに予備調査にご協力下さいました渋谷区立神南小学校寺崎裕子先生、帝京大学小学校脇山美希先生、はじめ本調査にご協力下さいました小学校・中学校の38名の先生方に深謝申し上げます。また、本文寄稿にあたりご教示下さいました本学穴戸洲美先生、佐島群已先生、黒田圭一先生、他多くの方に深謝申し上げます。また、本研究は日本教師教育学会第15回研究大会(2005年9月、北海道)において発表した。

参考文献、参考サイト

- 1) 菊地紀子、佐島群已：養護教諭養成における実践的指導力形成に関する研究(その1)－「事前指導」の方法の問題提起－、日本教師教育学会第12回研究大会要旨集、pp.65～66 (2002)
- 2) 菊地紀子、佐島群已：養護教諭養成における実践的指導力形成に関する研究(その2)－「実践事例」「視聴教材」の活用を中心に－、日本教材学会第14回研究発表大会要旨集、pp.41 (2002)
- 3) 菊地紀子、佐島群已：養護教諭養成における実践的指導力形成に関する研究－「実践事例」「視聴教材」の活用を中心に－、日本教材学会研究年報第14巻、pp.217～222 (2003)
- 4) 菊地紀子、佐島群已：養護教諭養成における実践的指導力形成に関する研究(その3)－「教育実習」の実践指導過程における意識変容－、日本教師教育学会第13回研究大会要旨集、pp.30～31 (2003)
- 5) 菊地紀子、佐島群已：養護教諭養成における実践的指導力形成に関する研究(その4)－授業づくりと教材の役割－、日本教材学会第15回研究発表大会要旨集、pp.70 (2003)
- 6) 菊地紀子、佐島群已：養護教諭養成における実践的指導力形成に関する研究(第二報)－教育参加の意味づけ－、日本教材学会研究年報第15巻、pp.217～220 (2004)
- 7) 菊地紀子、佐島群已：養護教諭養成における実践的指導力形成に関する研究、帝京短期大学紀要第13巻、pp.105～132 (2004)
- 8) 菊地紀子、佐島群已：野外教育における健康管理の実践的研究、日本教師教育学会第14回研究大会要旨集、pp.72 (2004)
- 9) 菊地紀子、佐島群已、原田涼子、上原真理子：野外における養護教諭の健康管理の実践、日本教材学会第16回研究発表大会要旨集、pp.79 (2004)
- 10) 佐島群已、菊地紀子、原田涼子、上原真理子：野外教育活動における健康管理の実践的研究－野外活動と養護教諭の役割をめぐって－、日本教材学会研究年報第16巻、pp.215～220 (2005)
- 11) 文部科学省報道発表一覧「学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」：
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/ (2004)
- 12) 保健室利用状況に関する調査報告書：
財団法人日本学校保健会、(2002)
- 13) 菊地紀子：栄養士養成における情報処理教育の教材に関する研究、日本教材学会年報第15巻、pp.211～216 (2004)
- 14) 文部科学省「情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議」：
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/002/toushin/980801.htm (1998)